



# 中学生向け漫画で教材

東御市教委が作ったがん教育の教材。漫画は鮭名さんが担当した

若者にもがんを身近な問題と捉えてほしいと、東御市教委は、中学生向けのがん教育の漫画教材「『がん』の話 知る・出会う・向き合う」を作った。たばこや運動不足などががんになるリスクが上がる要因や治療法を解説。早期発見のための検診を勧め、「正しい知識を身に付けてがんと向き合つて」と訴えている。

県教委保健厚生課によると、県内の市町村教委が独自にがん教育の教材を作るのは初めてという。教材はB5判、32ページ。市の地域おこし協力隊員で漫画家の鮭名星児さん(34)が作画を手掛けた。父親ががんを患っている中学生らを主人公に、女性教師や家族とのやり取りなどを通じて、がんの基礎的な知識や病気との向き合い方を分かりやすく描いた。千部作り、今後、市内の北御牧中、東部中に

## 東御市教委 リスク・治療法解説

配る。

これに合わせて市教委は29日、教材を監修した樋野興夫・順天堂大医学部教授(63)と病理・腫瘍学Ⅱを招いた講演会を開いた。市内の教職員ら約50人を前に、樋野さんは「東御市型がん教育モデルを全国に発信してほしい」と教材作りを評価。「2人に1人ががんになる時代に予防を強調した教育をしても無理がある。患った時に、どう向き合つかを教えるのががん教育だ」と話した。

講演後には意見交換会も。北御牧中の藤森祐介教諭(30)は本年度、担任の2年生のクラスでがん教育を始めるといい、「自分のがんの知識もまだ浅い。しっかり準備しないと無責任に関わってしまう怖さもある。教材を通してこれから考えを深めていきたい」と話していた。



**がんと生活との関連**

リスク要因であることが、**確実又は可能性が高いもの**

- ・たばこ
- ・肥満
- ・運動不足
- ・アルコール

リスクを上げる要素には様々なものがあります

こまかく言うとタバコの成分が細胞を傷つけるとコピーミスが起きやすくなって生まれるがん細胞が増えるんです。そうするとがんになるリスク・危険性が上がります

